

新設授業委科目 改善策（開講科目名：研究プロポーザル演習）

担当教員名【瀬渡章子・吉田容子】

①カリキュラムの改善点、②シラバスの改善点、③授業形態の改善点、④配布資料の改善点、⑤学生への対応の改善点、⑥TAのあり方の改善点、⑦その他の改善点などの観点項目を参考にご自由にお書きください。

① カリキュラムの改善点

本授業は本年度から新規に開講した科目であり、また、これまで大学院後期博士課程に設置されていた授業科目とは位置づけが異なることから、本年度は試行錯誤の状態であった。本年度の反省を踏まえ、来年度からは、受講学生が学習目標を達成できるよう、担当教員間で十分に打ち合わせや意見交換を行いながら、授業を進めることが重要である。

② シラバスの改善点

本年度のシラバスでは、授業の目的や内容、授業計画、および成績評価について、より具体的に示す必要があった。来年度のシラバスについては記載様式の変更があるため、これを機会に、授業の目的や内容、授業計画、成績評価等を受講学生に具体的に示したい。

③ 授業形態の改善点

本年度は、おもにディスカッション形式で授業を進めたが、発言する学生が一部に限られることもあった。受講学生に意見を求めたり、発言を促したりするなど、授業へのより積極的な参加について、担当教員の間で検討する必要がある。

④ 配付資料の改善点

授業で扱う事項に関連した資料の配付では既成のものを利用することが多かったため、配付資料の中には、直接関連しない内容も混在していた。受講学生が混乱しないような資料の配布に努めるとともに、担当教員が直接、資料を作成することも検討していきたい。

⑤ 学生への対応の改善点

本年度の受講学生は8名であったが、毎回の授業では、全員の参加が難しかった。とりわけ社会人学生への対応が、今後の課題である。勤務のため、授業に出席できない社会人学生が多かったため、来年度からは授業のスケジュールを早く立て、授業第1回目のガイダンスのさい受講学生に示す必要がある。

⑥ TAのあり方の改善点（H.18年度はTAの採用なし）

本年度からの新規開講科目であったため、授業のイメージがうまくつかめず、当初TAの採用は考えていなかった。実際に授業を進めていくなかで、授業の段取りや、教員から受講学生への連絡がスムーズに行えなかった点がある。本年度の反省から、TAの存在は重要である。

⑦ その他の改善点

開講の時期について、本年度は通年不定期開講としたため、授業が間延びしてしまった。来年度は半期の開講を明確にし、学生が授業に参加しやすい状況をつくる必要がある。